

ワークショップ 1

「治療を拒否する統合失調症患者との面接 -治療同盟の構築を目指して-

福本健太郎 岩手医科大学

小高文聡 東京慈恵会医科大学

稲垣貴彦 医療法人明和会琵琶湖病院

小松浩 東北大学病院

今村弥生 杏林大学病院

柏木宏子 国立精神・神経医療研究センター

EGUIDE プロジェクト (代表：橋本亮太 国立精神・神経医療研究センター)

医療観察法入院対象者の8割以上がF2(統合失調症圏)と診断されています。医療観察法入院治療においては、各疾患の治療ガイドラインに沿った薬物治療や心理社会的治療を行うことが推奨されており、統合失調症に関しては、わが国には統合失調症薬物治療ガイドラインが存在します。しかしながら、医療観察法に限らず、強制入院となった患者のなかには、様々な要因により、治療の必要性の理解や治療への同意が困難な患者が少なからず含まれ、薬物治療ガイドラインに沿った治療を開始することに障壁が生じることも少なくありません。医療観察法入院処遇ガイドラインでは、治療方針等に関する説明を尽くした上でなお、同意が得られない場合、担当多職種チームは、動機づけ面接等を実施するなどして、対象者と十分に話し合いを重ね、対象者の治療意欲を引き出す取り組みを行うことが必要とされています。

わが国では、統合失調症薬物治療ガイドライン、うつ病治療ガイドライン、双極性障害治療ガイドラインなどが公開されていますが、精神科診療に日常的に用いられているとは言えないのが現状です。その理由には、精神科医療にはガイドラインがなじみにくいこと、ガイドラインが使いにくいこと、ガイドラインが使えない症例も多数あることがあげられますが、ガイドラインに記載されている知識をどのように実践するのかについての教育が不足していることもその要因の一つと考えられます。EGUIDEプロジェクトでは、統合失調症の治療ガイドライン、うつ病の治療ガイドライン講習を定期的に行い、ガイドラインの普及と精神科医療の標準化についての活動を行っていますが、それだけでは臨床へのガイドラインの応用には不十分な面があることを考え、ガイドラインに記載されている知識の実践、つまり診療技術の向上のためのワークショップを継続的に開催しています。

本ワークショップでは、「統合失調症患者への治療介入を学ぶ」をテーマに、まず、ガイドラインとは何か、どのように使うべきかについて及びそのような患者の治療のために必要な知識の講義を行い、その後、統合失調症の架空症例に対するグループディスカッションを通じて、ガイドラインを臨床でうまく使うための診療技術について学ぶことを目的として企画されました。

今回のテーマは「治療を拒否する統合失調症患者との面接 -治療同盟の構築を目指して-」であり、架空症例は「初診で統合失調症と診断され、抗精神病薬を処方されたが、2回目の受診時には内服しておらず、病識は乏しい患者」です。この患者にどのような対応するのかを講義とディスカッションを通じて学びます。今回のディスカッションは、講演者らが壇上で行い、それを聴講していただく形式をとるため、聴講者は発言する必要はありませんが、ご意見のある方はディスカッションに参加していただくことも可能です。答えが一つとは限らない日常診療場面について、ディスカッションとその後の解説を通じて共通の理解を得る機会をぜひ多くの多職種の皆様に体験していただきたいです。そして、明日からの臨床にお役立ていただけたら幸いです。

<スケジュール>

2023年9月9日(土) 10:00~11:45

- ✓ 司会挨拶 (2分)
- ✓ ワークショップの目的について (8分)
- ✓ 講義：心理教育/病識について (10分)
- ✓ 事例提示(架空症例) (5分)
- ✓ ディスカッション (35分)
- ✓ 解説・面接例 (20分)
- ✓ 質疑応答・クロージング (20分)